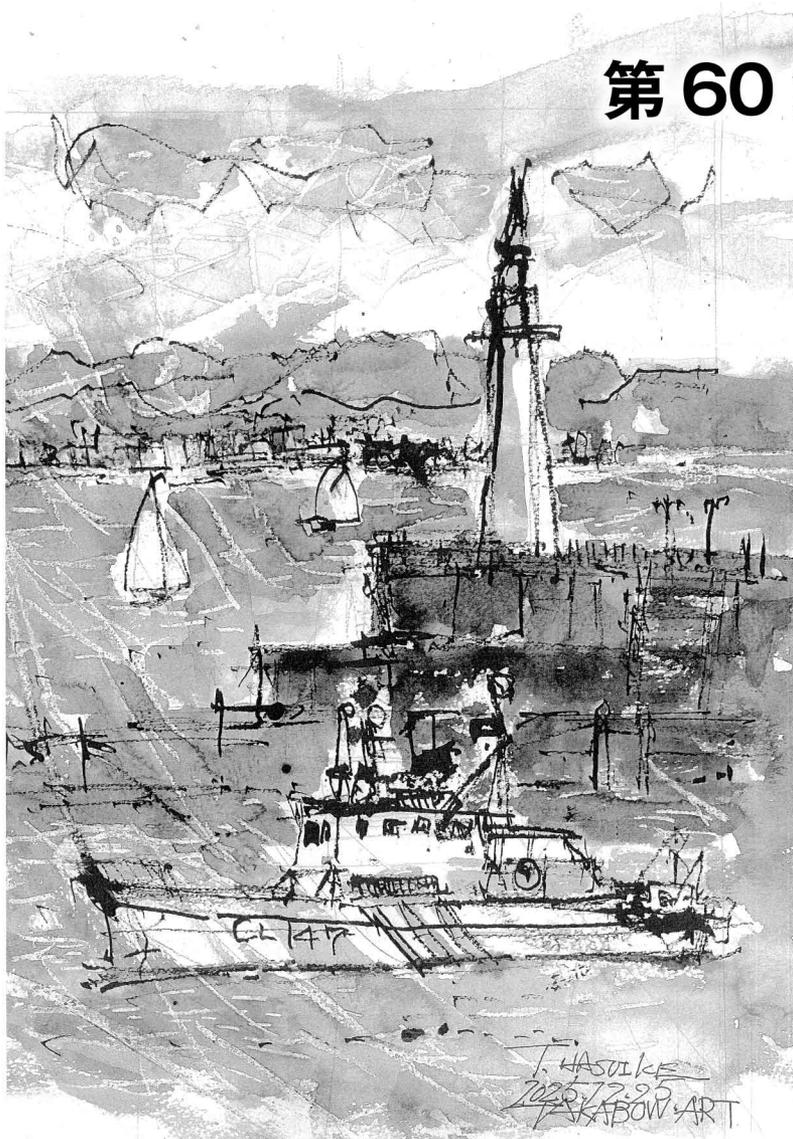


2026年

# 文芸ふじさわ

第60集



# 表紙のことば

## 海に生きる

風も冷たく、気温も低い12月の一。

東浜から江ノ島を望む。左端に長く突出した突堤、その先端にポツンと見える灯台。

さて島の中へ、江ノ島ヨットハーバーの右側に長く張り出した松林、松林を過ぎると栄螺島だ。

ここから見える灯台、その下に係留されている海上保安庁の巡視船、この風景が本日のテーマだ。

これらは私達を含め、海と海に生きる人々を見守っている。

ひるがえ 翻すと海を大事にし、海を守ることが、私達の使命でもあるように思える。

岩壁の先端でじっと海を見る。広い広い、本当に広い、果てのない広さ、そして深さ。海は青く黒く深いプルッシャンブルー、じっと見つめていたら、一瞬海の中へ引きずり込まれそうな錯覚に襲われた。おそ ハッと気付いて、思わず冷たい手摺りにしがみついた。

背すじに冷たいモノを感じ、我に返った。

海は怖い、本当に怖い。

海は魔力を持っている。まさに魔の力と言うべきだろう。

海に生きる人々の安全を心より願う。

2026年 正月

絵と文 蓮池高夫

# 文芸ふじさわ

第60集

## 目次

### 表紙のことば

#### 「文芸ふじさわ第60集」によせて

俳句	7
短歌	51
川柳	63
五行歌	81
現代詩	93
随筆	103
編集後記	154
サークル紹介	160

### 「文芸ふじさわ第60集」によせて

藤沢市長 鈴木恒夫

「文芸ふじさわ第60集」の発行を、心よりお祝い申し上げます。「文芸ふじさわ」は、市民の皆様から寄せられた短歌、川柳、俳句、五行歌、現代詩、随筆の作品を掲載しており、多彩な作品が織りなす豊かな表現は、読者の心を深く惹きつけております。地域の文化を育み、創作の場を提供する貴重な文芸誌として、長年にわたり親しまれてきた本誌は、今回、第60集という節目を迎えました。市民の皆様のご熱意ある応募に支えられ、本市の豊かな文化活動を映し出す一冊となっております。

文芸に親しむことは、言葉を通じて自己表現を深めるとともに、心の豊かさや感受性を育む大切な機会です。短歌、川柳、俳句、五行歌、現代詩、随筆といった多様な文芸形式に自由に取り組むことで、言葉の持つ力や美しさに触れ、創造的な思考が広がります。これらの活動は、個々の感性を磨くだけでなく、他者との共感や交流を促進し、地域コミュニ

ニテイの絆を深めることにもつながるものです。

さて、本市は昨年4月、市政の羅針盤となる「藤沢市市政運営の総合指針2028」を施行いたしました。めざす都市像は引き続き「郷土愛あふれる藤沢」松風に人の和うるわし 湘南の元気都市」であり、「みんなが大好きと思える藤沢」「誰もがやりたいことを見つけられ、実現できる藤沢」を実感することができるようまちづくりを進めてまいります。文化芸術は市民生活の質を高め、地域社会の活力を生み出すものでありますので、今後も多様な文化活動を支援し、本市をさらに魅力あるまちへと発展させてまいります。

結びに、「文芸ふじさわ」に作品を応募してくださる多くの文芸を愛する皆様、編集に携わる編集委員の皆様、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。皆様の情熱と努力があつてこそ、この貴重な文芸誌は長きにわたり発行を続けてこられました。これからも「文芸ふじさわ」が市民の創作意欲をかき立て、地域文化の発展に寄与していくことを心より願っております。